

公民第1章第3節（後半）

授 業 案

第 1 時 （ルールづくり）

段階	主な発問・指示	指導上の留意点 支援の内容
導入 【10分】	●「今日は、皆さんに事例に沿ってルールを作ってもらおうと思います。」 【ここでワークシートを配布】 ○ワークシートの事例を読ませる。 ●「さて、スポーツドリンクを飲むのに、早い者勝ちにしたら、どんな問題が生じるでしょう」 → ○生徒の意見を2人程度から聞いてみる。 ●「そういう問題が起こる可能性があるので、あらかじめ、どういうふうに分けるのが良いか、ルールを決めておく方が良いわけですね。」 ○ルールを決めることの必要性を簡単に説明した後、教科書26頁「きまりの意義」を読ませ、生徒の理解を深める。	
展開1 【8分】	○班で分かれてもらい、また班の中で、レギュラー、ベンチ入り、応援要員の立場に分かれてもらう。 → ○ワークシートの1に「立場」を記入させる。 ●「今からそれぞれの立場の人になったつもりで、どんなルールが良いか、自分の立場から考えてみて下さい。」 → ○まずは個人で考えさせて、ワークシートの2に記入してもらう（5分程度）。	○「自分はスポーツドリンクをもらって良いはずだ」という観点から自分の立場になりきってOK。その後の展開2で、各々の立場から議論することにより、意見の対立を生み出す。
展開2 【25分】	●「それでは、それぞれの班で、ルールを作ってもらいますが、その時にどんなことに気をつけたら良いか、確認しておきましょう。」 → ○教科書27頁「決定のしかた」を生徒1人に読ませ、ルールの決定の方法について、理解させる。 ●「それでは、残りの時間を使って、各班でどんなルールで分けるのが良いかを考えてみて下さい」 ○議論の最中に、班の中の、他の立場の人の意見を良く聞き、班のルールを作ることを意識させる。 → ○ワークシート3、4に記入 （各班で自由に議論させる）	○次回の時間で発表することを事前に伝えておく。どのように決定したのか（全会一致、多数決）についても、メモをしておくよう指示する。 ○各班を巡回しながら、議論の様子を見て回る。 ※ この展開2については、特に、弁護士による出前授業が最も得意とする授業形式であり、弁護士の参加により充実した授業が実現できると思います。授業方法など悩まれましたら、遠慮なく弁護士派遣をご要請ください。（弁護士派遣は無料です。）

まとめ 【2分】	●「次の時間では、ルールを発表していただき、どんなルールが良いかを考えてみたいと思います。」	
-------------	--	--

第 2 時 (ルールの評価と修正)

段階	主な発問・学習活動	指導上の留意点 支援の内容
導入 【2分】	●「それでは、今日は、皆が考えてくれたルールを発表してもらい、その内容について、考えてみましょう。」	
展開 1 【25分】	○各班によるルール発表 ※各班ごとに、決定したルールを板書した上で、その理由を説明してもらう。 ※発表の際に、どのような決定方法を使ったか、あわせて発表させる。 ●「それでは、出てきたルールについて、皆さんに意見を出してもらおうかと思いますが、どういう所に注意したら良いか、確認しましょう」 → ○教科書 29 頁の「決まりを評価する視点」を生徒 1 人に読ませて、ルールの評価の方法について、理解させる。 ○発表されたルールについて、意見交換を行う。 → ワークシートの 5 を活用。 ★（時間があれば）クラス全体で多数決を取って、クラスとして一つのルールを決定する。その上で、5つの視点と照らし合わせ、効率・公正という観点からも充足出来ているかをチェックする。 → ワークシートの 6 を活用。	○前回の時間で教科書で確認した、ルールの決定方法とリンクさせる意味で、この点についても、触れてみたい。 ○できる限り、5つの視点をベースにした意見が出てくると良いが、生徒が、これを自ら当てはめることは難しい。従って、教師の側で、どの視点に関わる問題かを指摘してゆくと良い。 ○ワークシートの 5, 6 は使用せずに、他の班の発表を聞くのに集中させても良い。クラスの実情に合わせ、判断していただければ良い。 ★生徒自身に考えさせる時間を取ろうとすると、やや時間が不足しがちなところだが、ここをまとめる時間があれば、教科書第 3 節全体のまとめにもなる。従って、もし、<u>第 3 時の授業を行う時間が取れるのであれば、展開 2 で示した事情変更の際の検討とあわせ、第 3 時にまわすと、発表の際の議論を深めることが可能であろう。</u> ※ 一部を第 3 時にまわし、第 2 時を充実させ、第 2 時の進行役や生徒から出てきたルールに対するコメントを弁護士に委ねるような授業も可能です。
展開 2 【12分】	●「今、皆さんにルールを考えてもらいましたが、事情が変われば、ルールも変える必要が出てきます」 → ○教科書 28 頁の「決まりは変更できる」を、生徒 1 人に読ませて、ルールの評価の方法について、理解させる。	

	○ワークシート「事情が変わったらどうする？」の部分を読み上げ、生徒に問いかける。 → ○班の中で自由に議論させる（５分程度） ○各班の代表者に、ルールの変更点を発表させる。	○本来であれば、第１時の展開１、展開２という流れを取りたいところだが、実際の授業では時間の制約が予想される。そのため、この授業案では、第２時までで終了できる授業案としている。 もちろん、時間の制約がなければ、上記の流れをとったほうが考えが深まるであろう。 ○５分で結論をまとめることは困難なので、変更されたルールではなく、どの点に問題点があるか、どの方向性で考えるべきかについて、意見を述べさせる程度になっても仕方がない。
まとめ 【６分】	●「これまで皆さんにルールを作ってもらい、それを変えることが出来るということを学んでもらいました。最後に、なぜルールを守らなければならないのかということを、理解しておきましょう」 → ○教科書 26 頁の「権利・義務・責任」を生徒 1 人に読ませる。 ○教科書第 3 節で学ぶべきことをまとめ、教師から、生徒に伝える。	○一応、ルールを守るべきことについても、触れておきたい。

※ 以上は、あくまで一例であり、学校の実情や先生方のお考えに従い、自由に変えていただきながら、お役立ていただけると幸いです。

また、授業実施に当たり、弁護士の派遣をご要請いただいた場合には、授業の進めかたから先生方と弁護士との役割分担まで、全てフレキシブルに対応します。どんなことでも、ご相談下さい。